

年金佐倉.org

このホームページは現在製作の
テストを行っています。

新年あけましておめでとう御座います。

昨年より年金組合佐倉支部のホームページを作りたいという意見がありました。しかし会員の中にはまだ「ホームページとはどんなものかわからない」という方もあってとにかく見本をつくってみようということになりました。

ホームページには何を入れようかという話になり、何ととっても会報である「年金かわら版佐倉」は必要ということになりました。

そこで紙に印刷された会報11月号をスキャナーで取り込んでみました。しかし会報の大きさはB4版です。私が持っているスキャナーはA4ですから入りません。そこで1ページを半分ずつ取り込んで編集で1ページに仕立てました。

これを2ページ分作り、更に毎月の予定を取り込んでこれを仮のPDFとしてみました。

出来映えはまあまあでしたがファイルの大きさが7MBにもなってしまいました。ファイルの大きさは使うサーバーにもよりますが2MB以下にしたいものです。

PDFにする際にファイルを小さくすることは出来ますが今度は会報の字がボケてしまいました。あれこれやり

くりしてみました。5MBが限界でした。

そこで会報の編集をやっている米沢さんから会報をデジタルのまま送って頂きこれをPDFにしてホームページに取付けようと思いました。

私はMACを使っていますが、この会報のファイルを開くことが出来ませんでした。

そこでウィンドウズを持っている許さんと連絡をとって何とかPDF化を試みたのですがどうにもなりません。

この試みも「もはやこれまで」と考えたのですが、最後の手段と友人に助けを求めました。そして幸いなことに会報のPDF化には成功しました。

さて、このPDFを他に編集するPDFに合流させなくてははいけません。未だやったことが無いので説明書を読みながら何とかこのようなものになりました。

このホームページはあくまでも試験品です。未だ正式にホームページを作るという決定もなされていません。もしやるとすれば正式なドメインやレンタルサーバーも必要になります。しかし、サンプルが無いとホームページを作るかどうかの判断も出来ないので判断をするためのサンプルとしてお許しください。

大久保 忠 記

成田には 素晴らしい自然が

12月5日は、JR成田駅北口から広がる、成田ニュータウン自然公園を巡る散策でした。沼口さんから「ここは昔のままの自然を、公園として残して開発した街」と、見どころのポイント聞き、出発しました。

青空をバックに、白い鷺が飛んでいて、秋日和の様な暖かい陽射しの中、中台運動公園を横切り、カサカサ、パリパリと、落葉やドングリを踏みしめながら、紅葉が水辺に映える、松ノ下公園から後谷津公園へと進み、赤坂公園で、紅葉狩りを楽しみました。

みんな、異口同音に「きれい！」と感激。緩やかな丘陵地帯に広がる、里山の自然は、安らぎを与えてくれました。住宅街で出会った人達は、み

小春日和の広い公園で休憩



んな笑顔で（凧上げの人も）成田は、心豊かな町と印象に残る散策でした。（細野喜美子）

次回「やぐら」は

1月29日（日） 午後1時半
中央公民館 研修室2
記録映画
「佐倉義民伝」
「井野の辻斬り」

お元気ですか

<26>

白井 柴田 大丈さん（83歳）

自然や遺跡を守り続けて

茨城・日立の出身です。日立製作所で組合活動の中で奥さまと出会い、結ばれました。青春時代を謳歌している時、人員整理で職場を解雇。東京へ移転。通信関係の出版社に勤務されました。当時最先端の原子力発電の開発、宇宙開発の事業の中に組み込まれ、ヨーロッパにも度々視察にでかけられたそうです。ストレスから50代で脳梗塞に罹られ、奥さまの懸命の介護と食事療法で職場復帰。70代で再発し、足に麻痺が残りましたが、今も懸命のリハビリをされています。

退職後は自然同好会を立ち上げ、指導者として長年にわたり動植物の大切さを子供たちに教えてこられました。稲荷台の一角では、地元の人達とビオトープを造りホテルの里を守ってこられました。又山万の開発に合わせ、井野小の父母の方々と遺跡を守る運動を続けられました。

穏やかな話し方の中にも、反骨精神がみて取られ80歳を過ぎた今もかくしゃくとしていらっしゃる姿に圧倒されました。くれぐれもお体を大切に今のお元気をもち続けてほしいと願いつつ、おいとましました。（かわら版 記者）

映画を観る会

「野菊の如き君なりき」

戸惑いながらも 大人の恋愛へと

15歳の少年と17歳の少女、病気がちの少年の母親は、少女民子に身の回りの世話をしており日常少年の家に出入りしていた。だから、2人の間にごく自然に幼い恋心がめばえて当然であった。世間の噂を気にする親戚や、ある種の嫉妬をもやす周りの女性たちによって、戸惑いながらも大人の域の、恋愛へと追い詰められていく。

綿の実摘みの畑の中の2人はとくに民子は自分が年上である負い目を持ちながら愛して止まない政夫に「野菊が好き」と素朴にうたえる。結末は哀れだが、あの時代の結婚は、家、財産、世間への顔などに重きをおかれ、犠牲に泣いた女性が多かったことだろう。

後の懇談会で「いつそのこと、駆け落ちしたらいいのにな」の感想がありました。ね、どんな選択が幸せだったのか、始めの追憶シーンの政夫は、年老いた孤独の老人だった。いつまでも、若き日の民子を思って生きていくのかも知れない。一番つらいけど、自身の思いを通した、強い生き方を選らんだのかもしれない。

11月19日 大雨の降る中を千葉ポートアリーナに急いだ。会場は大太鼓が響きわたり、会話も出来ないほど熱気につつまれていた。生涯最初で最後の経験と、どきどきしていたが、思いっきり歌えたと思う。

日本のうたごえ祭典

in ちば

11月19日 大雨の降る中を千葉ポートアリーナに急いだ。

佐倉の街並みは歴史的に道幅が狭く、私たちにちょいと生活しづらい地形です。バリアフリー化を進めることは大変な事業ですが、

さくらの会

映画「城下町佐倉」を観て

古い町並みと 共存する町に

さくらの会で上映した「城下町佐倉」など2本の佐倉の歴史記録映画を観て、改めて、まちづくりについて考えました。

佐倉の街並みは歴史的に道幅が狭く、私たちにちょいと生活しづらい地形です。バリアフリー化を進めることは大変な事業ですが、

の発言の奥に・・・基地を放置している、国のやり方に怒りをつきつけなくてはと。やさしく温かい音楽会の中で、訳のわからない涙がこみあげてきました。降り止まない雨の中を歩きながら、何回も「来てよかった」「佐倉もコーラスのサークル作ろうよ」色々いいことがあった、歌声祭典でした。（伊藤 繁子）

歩くときに杖や手すりがあったり、介添えの大人がいたり、子どもたちがいれば楽しくなります。生活環境全体をフラット化することは困難です。真のバリアフリー化とは人間

の上下がなく、知らない人同士でも声をかけ合い支え合うことができる、心のバリアを取り除くことから始めたいと思っています。

古い町並みを壊さず共存できるまちづくり。仲間と一緒に考えたいです。（菊地志津

志津の会 例会

盛りたぐわんの イベントで 盛り上がる

12月11日 忘年会で今年1年を締めくくりました。参加者は37人でした。

今年11月で、9ヵ月になりましたが、東日本大震災という最大の出来事がありました。原発の災害もあり先の見えない中、被災者の

生活を1日も早く取り戻し不安を解消したいものです。今年を振り返っての感想では「TTPPについて佐倉市政に引きつけて考えてみることも必要」「パソコンを覚えてインターネットを開くと沢山の情報が得られる」など出されました。

乾杯の後、池田さん、斉藤さんのハーモニカと伊藤さんのフルートとのコラボ、河合さんの独唱、初めて参

加の梶浦さん(92歳)のソプラノ、詩吟では領尾さん、福島さんのアコーディオンに乗っての楽しいクリスマスソングで更に盛り上がりました。小林さん戸倉さんのコンビでカラオケを進め各々のど自慢を披露。会場のお世話をお願いしている戸倉さんに感謝し、「上を向いて歩こう」でお開きになりました。（かわら版記者 T）



皆既月蝕

2011年12月10日に皆既月蝕がありました。いつもなら当然望遠鏡を引っ張り出す所でしたがあいにくその日は忙しく、かつ月蝕の始まる頃から雲が出るというあいにくの天気でした。

そこで買ったてのオリンパスSP-800UZというカメラを三脚に付けてカメラのレンズだけで撮ってみました。まあまあの出来だと思っています。



11月の散策の会

11月の散策の会の写真です。

このように記念の写真を載せることも出来ます。



奥利根にバス旅行もしましたね。

